

中和ボランティアだより

発行 中和地区社協
令和4年10月28日

今回は「お出かけツアー」を紹介します。
これは中和地区にお住いの高齢者を対象にした「外出支援サービス」
のひとつで、中和の社協が主催しています。



ボランティアのみなさんがささえています！

実際の活動は、中和社協の会長である金山弘代さん、副会長の三船かず
こさん、そして3名の運転手さんの合計5名のボランティアの方々によって
運営されています。

積雪期をのぞく4月から12月までの間、月一回のペースで久世方面へ出
かけ、買い物をしたり春にはお花見をするなどのちょっとしたレジャーも楽し
んでいます。コロナ禍での実施は大変ですが頑張ってください。

あいにくの雨も
なんのその



このツアーの利用の対象者は

- ①中和地区在住で、自動車の運転が困難（同居の家族を含む）
- ②乗降時において介助の必要のない65歳以上の高齢者
という条件を満たす方となっています。

代表の金山さんは「高齢世帯のため外出の機会が少なくなった方々を対象にしたツアーで、
単に買い物をするのが目的ではありません。外出することが高齢者にとっては身体的にも
心理的にも良い影響をおよぼすことはすでに知られており、そこに重点を置いた企画です」と
話されます。

家にこもりがちな高齢者にとっては、外出することや人と交流することがとても大切だとい
うことで、そのお手伝いをしてくださっているということですね。

ボランティアのみなさんに感謝です！

利用者からは「みんなで一緒に出かけるのは本当に楽しいです」「春には久しぶりに満
開の桜が見られてうれしかった」などの声が寄せられています。

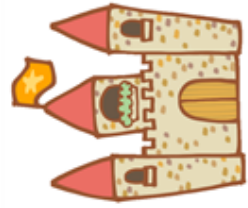
コロナで外出すること自体が難しい中、感染予防に気を配りながら高齢者のための外出
支援をしてくださるボランティアスタッフの皆さんに感謝です！



裏面もあるよ



ボロのトイ王国のお話し



昔むかし あるところにボロのトイ王国という国がありました。
 この国を治めるボロのトイ王は国民を大切にするとお思い王様でした。
 「ボロ」の文字に威厳がありません。しかも舌を食っても生焼けもしくならず、何をしても楽しくなるのであ
 り配ったお肉はもはや国中の名医者様に王様を診てもらいましたが、全然取くがひませやく病気の原因もわかりませんでした。
 そんなある日、一人の旅の僧がお城を訪ねてきました。
 「わたしは【無徳派】の僧侶で「社会実証」と申します。王様の「病脈を治してやりあげまじやう」と
 言いました。

困り果てていた王様はちよこひり変わった名前の子の僧に病脈の治癒を頼むことになりました。
 僧は「王様！自身が体を動かして、尿の袋に立つことをしてください。そしてその際には
 眼窩りを求めてはなりません」とだけ言いました。
 王様はちよこも城を出て道に落ちているゴミを拾ったり、道に倒れている穴を埋めたりして
 「生懸命に働きました。家臣たちはあわてて王様を止めましたが、王様はおかまひなりました。



ある日「うた」をうたう僧。みんな「舌を食ってか、おれはしませやくた食事が何を食ってもうたも拾ういらのだす。
 ものうた食おも腫れ物れとつたなんだか舌脈が通ておました。
 ちよこり病脈が取くがひませやく王様は、まだ社会実証を呼んで言いました。

「そなたはうたも取うことを教えてください。この無徳の病脈のちよこしを国民たちにもおぼせまじやう」
 すると法師は言いました「国民たちはもうすでにお城を造ったり、道をつくりたりと、無徳の病脈は十分にうたうしてあります。
 それも強制的に。」

それを聞いて王様は驚きました「なんじやうか、お城や道路の建設に働いた者たちにはちよこんお金を払ってらるはまじやうか」
 「王様は！信じないでしようが、働いた家臣がそのお金を自分の口ト口に入れてしまっているのだす」と法師は言います。

「みんな！うたうたらだんはまじやうか〜」
 王様は怒って働いた家臣の財産をすべて取り上げて、尿たちに分け与えてやりました。
 それからのちよこは国のために働いた人たちはちよこんお金がおぼせやくものになり、国も国民も豊かになつていきました。

みなさんアイを
 ボランテイング
 始めませんか？

そして生涯にゆとりができた人々は自分から進んで困っている人々を無徳で助けたり、
 ものうた取国になるものじやう、積極的に国づくりに参加するものになりました。
 じよこりボロのトイ王国は未来永く繁栄し、人々は幸せに暮らしました。

そしていつのころからか人のためになることを無徳で行うことを
 王国の名前にちなんで「ボロのトイ」と呼ぶものになつたというじよこす



めでたし めでたし
 ※この物語はこよくシエントす